

受入れ容量はすでに限界！

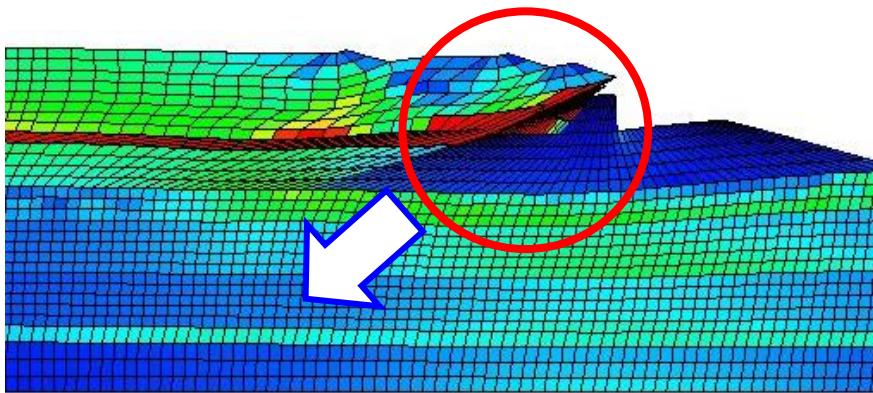
日本有数の国際貿易港 **名古屋港**は
機能維持(航路・泊地の整備拡充)のため
毎年100万m³以上の浚渫土砂が発生.



浚渫土砂の仮置場として1974年に建設された
名古屋港ポートアイランドはすでに海拔
15mまで達しており**受入れ容量は限界**.

もし巨大地震がやってきたら？

地盤解析コード**GEOASIA**により検討
埋立過程を再現してポートアイランドをモデル化し
地震時の耐震性能を調べる



地震により浚渫土が護岸に乗り上げる可能性。
航路がつぶれ、船舶が入ってこれなくなってしまう。

新しい土材料を開発する

浚渫土砂の利活用

新しい土材料
として利活用
↓
名古屋港の
浚渫土砂を
減らす

セメント混合による改良土の開発



均質化された
高含水比浚渫土



固化材
(高炉セメントB種)



ミキサーによる攪拌



セメント改良土

セメント改良土の性能評価・品質保証

SYS-Cam-clayモデルにより、実験を再現・力学特性を把握し
改良土の品質保証を行なうことにより、地盤材料として
様々な構造物への利活用が可能となる

